

第一回中間報告

2018年9月24日～2018年12月15日

(修士課程 第一学期)

国際ロータリー2710 地区

2018-19 年度 グローバル補助金奨学生

宮田 春香

1. 報告書提出日

2018年12月29日

2. 基本情報

氏名：宮田 春香

派遣ホストクラブ／カウンセラー：広島東南ロータリークラブ /菅 富誉樹様

受入ホストクラブ／カウンセラー：Rotary Club of London / Mr. Rajiv Sabharwal

教育機関：キングスカレッジ・ロンドン King's College London

専攻分野：大量破壊兵器の不拡散と国際安全保障 Non-Proliferation and International Security

3. 留学先について

留学先であるキングスカレッジ・ロンドンは1829年に創立され、イギリスで4番目に歴史ある大学です。学問分野によってテムズ川沿いにキャンパスが分かれており、第一学期の私の授業は主に **Strand** キャンパスと **Waterloo** キャンパスで行われました。余談にはなりますが、この二つのキャンパスをつなぐ **Waterloo Bridge** という橋から見る景色がロンドンで一番綺麗だと現地の方に教わりました。東側にはビッグベンとロンドンアイ、西側にはセントポール大聖堂やシティ地区の近代的な建築が見えて、ロンドンの歴史を感じることができます。私の通っているキャンパスの周りには他のロンドン大学群に所属する教育機関や博物館、美術館が多く所在しているので、息抜きに違う大学の図書館にお邪魔してみたり、ナショナル・ギャラリーやテート・モダンで芸術にふれてみたりと様々な機会に恵まれています。



(珍しく晴れた日とロンドンらしい霧の日の Waterloo Bridge からの景色)

キングスカレッジ・ロンドンのなかでも私の所属している War Studies 学部は世界的にも有名で、研究トピックによって 15 のコースに分かれています。年度によって人数は変動するようですが、多いところで 60 人強、少ないところでは数名とばらつきがあることから細かい分類の様子が見えます。私の専攻している「大量破壊兵器の不拡散と国際安全保障」に関しては 5 名と非常に少ないのですが、その分担当教官と学生の距離が近く、少しお得な気分を味わっています。中でも、個別につくチューターの先生には日々の課題から修士論文まで様々なサポートをしていただいております、(映画撮影にも使われた図書館自慢の部屋。)

とても助かっています。



4. 学業面での成果

キングスカレッジ・ロンドンでは 10 週にわたる 1 連の授業で 1 モジュール (20 単位) が構成されており、1 年間で必修モジュール (40 単位) と選択モジュール (80 単位)、修士論文 (60 単位) の計 180 単位を取得します。今学期は必修である「大量破壊兵器と国際安全保障」に加え、選択科目として「サイバーセキュリティ」と「現代インドの政治哲学」という 3 つのモジュール (計 60 単位) を受講しました。

i. 大量破壊兵器と国際安全保障—Proliferation and International Security

核兵器、化学兵器、生物学兵器の拡散と不拡散・軍縮を包括的に学ぶ 1 年間にわたる授業です。前半にあたる今学期は主に大量破壊兵器拡散と不拡散・軍縮政策の歴史について学びました。この知識を応用して、来学期からは兵器保有国や地域のケーススタディやサイバー兵器、テロリズム、核兵器禁止条約など最新の問題について考察を深めます。今学期は、なぜ国が大量破壊兵器を保有しようとするのか、その際にどのような障害が生じるのか、兵器を持つことで国内外にどのような変化が起きるのかということの一つ一つ丁寧に学び、議論を深められたことがとても印象的でした。というのも、これまでの私は核兵器に保有後の問題を中心に学んでいたからです。大量破壊兵器を欲する背景にも様々な要因が絡んでおり、ケースごとに対策も変化させていかなければならないことを自覚しました。また、15 名のクラスメイトは所属コースの学生に加え、軍備管理や科学と国際安全保障、国際関係学、国際紛争など様々な専攻の学生が集まっています。アメリカ、ヨーロッパ、アジアからの学生が三分の一ずつと War Studies のなかでも特にダイバーシティに富んだ授業となっています。欧米出身の学生とアジア出身の学生の意見が異なっていたり、どうしても理論に偏りがちな私のような学生に科学的なバックグラウンドをもつ学生が具体的な技術や数字を提示したりと多様な議論を展開できたことも印象的でした。

ii. サイバーセキュリティ—Cyber Security

国家による諜報活動から防衛戦略、紛争における活用までサイバー領域の安全保障政策について学ぶ授業です。これからの時代にさらなる需要の増加が予想されるサイバーについて知識を深めたいと考え、本授業を選択しました。この授業で最初に受けた衝撃は、一般的なレベルと専門的なレベルで議論に大きな乖離が存在することでした。コンピューターやネットワークを活用した技術が身の回りのありとあらゆるところに存在するからこそ、しっかりとした定義付けや問題特定の必要性を感じ、期末エッセイでは「サイバー戦争」という用語の使用の是非について考察しました。サイバーセキュリティは私にとってはじめて専門的に学ぶ分野だったので、テクニカルな知識に苦勞することもありましたが、クラスメイトの助けを借りながらなんとか乗り越えることができました。

iii. 現代インドの政治哲学—Making of Contemporary India: History and Political Theory

核兵器保有国インドの考え方を学ぶため、所属学部外である India Institute の本授業を受講しました。この授業では、いかにして様々な政治哲学の思想や理論がインドの成り立ちを形成してきたかということをも宗教や言語、カースト制度、ジェンダーなど様々なトピックから考察しました。インド政治哲学の権威である Sunil Khilnani 教授から直接学べたこともとても貴重な経験となりました。人種や宗教、言語など何事においても多様性に富んでいることがインドの特徴ですが、この多様性を障害とみなさず、むしろ強みとして国家形成に励んだ過程があることに感銘を受けました。植民地支配からの独立後、多様な国民をまとめあげるための戦略として原子力をはじめとする科学技術の発展などが用いられたことを知り、改めて多角的に核兵器開発を考察することの重要性を感じています。

5. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

受け入れていただいている 1130 地区と Rotary Club of London では多くの活動に参加させていただいています。9月30日には1130地区の奨学生歓迎パーティーでロンドン近郊の奨学生と顔合わせをしました。10月19日～21日にイギリス南部の都市 Bournemouth で行われた Rotary District 1130 Conference では、奨学生全員でプレゼンテーションを行いました。また、12月1日には1130地区の奨学生やカウンセラーの方と集まり、早めのクリスマスディナーを行いました。今年度の1130地区では日本、アメリカ、カナダ、イタリア、フランス、トルコ、カナダから公



衆衛生や疫病学、開発学、紛争解決、言語学などを学ばれている方が27名集まっています。地区のイベント外でも奨学生同士で集まる機会が多く、高い志を持った仲間がいることをとても心強く感じています。

(奨学生とのクリスマスディナー)

Rotary Club of London ではこれまで3回昼食会に参加させていただき、11月には自己紹介と研究内容に関するプレゼンテーションを行いました。また、12月10日にはクリスマスランチにも参加させていただきました。カウンセラーの Rajiv さんをはじめ、ロータリアンの皆さんはとても気さくな方が多く、公式なイベント以外でもお食事会にお誘いいただいております。



(左：カウンセラーの Rajiv さんと。右：Rotary Club of London 会長の Luis さんと。)

Rotary Club of London の方が関わっている Paddington Library English Conversation Club と St. Johns Hospice でのボランティア活動にも参加しました。English Conversation Club では毎週土曜日、図書館にて英語を第二言語としている方を対象に英会話教室を開いており、私はアシスタントを担当しました。日常会話はできるけれど発音や語彙力に自信がない、電話での応答が苦手、イギリスに来たばかりで英語があまりわからない...など様々な生徒の方が毎週集まり、料理や買い物など身近なシチュエーションで「生きた」英語を使う練習をしています。私自身も英語が第二言語なので自分の経験からレッスンを改良したり、生徒の方の相談に乗ったりと私なりの貢献ができたのではないかと考えています。生徒の方がレッスンの終わりに見違えるように自信を持って英語を話す姿が印象に残っています。St. Johns Hospice では緩和ケアホスピスにいらっしゃる方へ昼食をふるまうボランティアに参加しました。昼食を提供するだけでなく、一緒にアクティビティをしたり、お話しをしたりと楽しいお昼の時間を過ごしてもらえるよう努めました。このように、ロータリークラブを通して現地のコミュニティと関わる機会を紹介させていただいており、非常に貴重な経験をさせていただいております。



(右：English Conversation Club の様子。左：ロータリアンの方にスコットランド料理をご馳走になりました。)

6. 直面した課題・今後の目標

日々、課題がとても多く今学期はこなすことで手一杯になってしまったことが今学期の反省点です。授業でのクラスメイトの発言を聞いていると、より深い批評や観察が必要なのだなと痛感したので、今学期得た知識を定着させ、自分なりの意見をより建設的に述べられるように来学期に向けて準備をして参りたいと思います。また、来学期からはいよいよ修士論文に本腰を入れて取り組んでいかなければならないので、計画的に進められるよう苦手なタイムマネジメントの改善にも取り組んでいきたいです。イギリスではこの時期は日照時間が短く、天気がすぐれないことも多いので、憂鬱な気分になってしまうこともあります。3月のイースター後はガラッと変わり明るくなると聞いています。イースターを晴れ晴れとした気分を迎えられるようにできることを一つずつ積み重ねていきたいと思っています。